
花氷

上の空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花氷

【Nコード】

N7261I

【作者名】

上の空

【あらすじ】

【はなこおり】 美しい花が中に入っている氷。暑い夏にひんやりと目にも涼しい。

やっぱり、来てよかった。

綺麗だ。

いくつになっても海を見ると心が弾むのは私だけじゃないと思っている。

電車の窓一面に海が広がって、乗っていた人たちが一斉に窓に顔を向けて。

さっきまでよそよそしい感じだった人たちの間にちょっとした共感が流れるのがわかった。

海は陽射しを思い切り反射して言葉通り、きらきらしてた。

何か、心の中がどんよりしていたのが少し照らされるような気持ちだった。

少しだけ。

現実的には、
こうして海を見ても

どんなに綺麗な景色を見ても
現状は変わらない。

でももしかしたら

言葉を失うくらいの景色を見れば、
どうでもよくなるかもしれない。

なーんだ。て。

バックパックから電車の分厚い時刻表を取り出し、
次の接続を確認する。

あと30分もしたら次の乗り換え駅だ。

うん。順調この上ない。

5時間後には目的地に着く。

電車の一人旅はとても気楽。

自由で気ままに
時間は無尽蔵にある。

でもありすぎて

自然と考えがあちらに向かってしまう。
沈めようとしても
浮いてきてしまう。考えてしまう。

なんでなんだろう？て。

考えるたびに本当に胸が痛くて
ズキズキっていうのはこういう感じだなんて思う。

なんでなんだろう。

あの人の態度は急に変わってしまった。

私に原因があるのか。
ないのか。

やっぱり私じゃだめなのかな。

でもきっかけは何だろう。

考えても考えても
かなりシビアに考えても
全然わからない。

でもきつと

何かがあつたことは確かだ

そして

もう二度と戻れないことも
きつと確かだ。

もうすっかりぬるくなつてしまつた水を口に含む。

汗がひっきりなしに流れていて
すぐに喉が乾く。

夏なんだ。

夏が好きだつて言つてたな。

私は冬の方が好き。だつた。

雪が好きだし、寒いのは我慢できる。

でも今は

夏がとても好きになってしまっていて。

昔は憂鬱になっていたこの暑さとか陽射しとかが
心優しい。

悲しいことに。

今、何してるんだろ。

何考えてるんだろ。

少しは私のことを考えたりするんだろうか。

何度も携帯電話を開いては閉じる。

優しい人なのに。

優しい人だと思ってたのに。

こんな風に人を傷つけることもできちゃうんだな。

ぱつと視界が暗くなる。

トンネル。

そろそろ乗り換えのはずだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7261i/>

花氷

2010年10月11日00時09分発行